



事業部会 部長：菅野 義治

競技会 佐々木宏昭(主任) 和田 忠彦  
(協力：長田 輝夫会員)

WEEKDAY交歓会：菅野 義治(主任)佐々木つや子  
渋谷 妙子 嶋田 園子  
八重樫トモ 日黒 裕子  
北野 妙子 梁田 満寿子  
武田 義子

シルバー関連：山内 宏(主任) 和田 忠彦  
酒井 倭子 武田 義子

対外交流：山内 宏(主任) 菅野 義治  
和田 忠彦 八重樫トモ

担当幹事：大賀 延行

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

## ＊ 壮年のパワーを生かそう ＊

和田 忠彦

「年輪のパワーを生かす 新時代」今年のねんりんピック福井大会のテーマです。全国都道府県・政令都市から集まった壮年選手団のあの熱気溢れるパワーは、この大会テーマをさらに盛り上げ、実現可能の確信と新たな希望や意欲を与えてくれました。

あの感動の日から早半年の歳月が過ぎた今、改めて、自分のテニスライフとその周辺を見詰めています。

私の住む利府町も、利府テニス協会を中心に、協会加盟のクラブを始め、任意のグループが、テニスに関して様々なニーズを持ちながら増えてきています。我が壮年テニス連盟加入の利府会員もそれらのグループに所属し、それぞれの活動をしているのですが、ある一つのグループが出来たことに注目しています。つくられた経緯は存じませんが、その顔ぶれを見ると、偶然なのか、連盟主催のウィークデイテニス交歓会に顔を出す方々が大半を占めているのです。今のところ、毎週水曜日、3～4時間、内1時間は、真剣に自主的ドリルに取り組んでいます。お誘いを受けて、3月に入ってから仲間に入れていただきましたが、皆さんが私に期待をしているものを感じ、ドリルのお手伝いとして、拙い球出し役をかって出しました。

昨年、利府のコートにも、ねんりんピックや東北マスターズ大会が縁となり、仙台、石巻、名取、盛岡等の壮年テニスプレイヤーの方々がおいで下さり、ささやかですが、一日地元プレイヤーとテニスを楽しんでいただき、交流を深める機会もありました。一昨年の「ねんりんピック座談会」(会報26号)で、県壮年テニス連盟は、その名称の通り、全県的な活動

を目指していく必要があるということが話題となりましたが、昨年8月、早速、関係者のご手配お骨折りがあって、仙台市と石巻市の壮年テニスプレイヤーの交流テニス大会が、石巻市の石巻ローンテニスクラブで開催されるなど、組織的な取り組みがいただけたことは、喜ばしいかぎりです。

その後、石巻市を中心に、県北に壮年テニス連盟の支部結成の動きなどあるやに、もれうかがいましたが、県北地方の壮年パワーを結集して、実現出来るよう心からご期待申し上げる次第です。

昨年10月、仙台市勤労者体育館主催のテニス教室に参加する機会があり、その際感じたことです。受講者50名程度の内、50～60歳代の方々が約20%おられました。その方々の受講態度、レッスンへ立ち向かう真摯な姿勢に感銘を受けるとともに、高校生や青年、成年層を交えたレッスンの中でも、彼らの向上心や意欲が極めて旺盛であり、若い世代の方々に対して大きな刺激を与えていました。私は、同世代の一人として誇らしさすら覚えた次第です。教室閉講の折り、その方々へ、活動の場をもっと広げる場として、県壮年テニス連盟の活動を紹介させていただきました。

この3月初旬ウィークデイに、町営コートに壮年のメンバーが練習していた時です。同年配であろう一人の男性が、普段着のままコート脇で熱心に我々の練習を見ているのに気づきました。私は、気さくに声かけをしました。やはりテニスがやりたくてみえられたのです。車の中にラケットを始めウェア、シューズを用意しておられました。ご一緒にとお話しすると喜ばれ、早速仲間になっていただきました。お聞きするところによれば、退職され、東京の方から隣町の松島町にお住まいになられたとのこと、テニス歴も20数年等等・・・。

長い間テニスをしていると、「この人、テニスをしたいのだな」と直感的に分かるものだと、我ながら感心してしまいます。テニスを楽しむ者同志なら、コートに来たら何時でも誰でも仲間として受け入れてあげられるといった雰囲気づくりも大切なことではないでしょうか。

テニスを楽しむ仲間でも、それぞれが持っているニーズは多様です。しかし、注意して見ると、小グループは、共通のニーズを持つ個々の集まりで形成されているようです。この範囲であれば、小回りのきく個人として役に立つことも可能でしょうが、ニーズは常に変化し発展し多様化します。協会とか連盟

という組織が、会員個々のニーズを掘り起こし、これに応える機能を充実出来れば、自然組織は活性化されると思うのですが、いかがなものでしょうか。しかし、組織に所属する個々人が、組織（協会、連盟、クラブ、グループ等）が個々のニーズに応じて機能するよう、積極的に働きかけることも又、忘れてはいけないことだと考えます。

当面、私は、テニスを愛する仲間と共に、誰でもが何時でも楽しくテニス出来る、雰囲気、環境づくりに努めるつもりです。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

## ※ 競技会担当を拜命して ※

佐々木 宏昭

### 1. 自己紹介

競技会担当 を命ぜられました佐々木でございます。当年55歳（気持ちは20歳）、テニスを始めましたのが37歳（遅い目覚め）自己流のまま、現在入会5年目に至っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

### 2. 壮年テニス連盟への入会の動機

将来にわたり楽しいテニスを継続するためには、皆様の輪の中に積極的に入って行って、幅広く友達を作らなければと考え入会させて頂きました。ところが、諸先輩の皆様方が、夏の暑さや、冬の寒さにも負けずに喜々として活躍されている様子を拝見し、自分のテニスに取り組む姿勢が恥ずかしくなりました。

### 3. これまでに感じた事項

会員個々のがニーズを考慮し、細目濃やかに各行事を計画、運営されていること。（四大大会、WEEKDAY交歓会、シルバー関連、対外交渉会等）

ハンディキャップ制を導入しての競技会の運営により、偏りのない公正公平の追求。

### 4. 今後の目標

テニスを通じて仲間を広め、共に生き生き人生を謳歌出来ればと思います。これまで先輩諸氏が営々と築きあげてこられた伝統を次代の方々に着実に伝承するよう努力する覚悟でございます。先ずは、会員の皆様の積極的な参加と、力強いご指導を賜りながら、活気に富んだ競技会の運営を目指したいと思いますので宜しくお願い致します。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

## ☆ シェルコム せんだい ☆

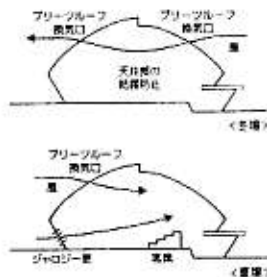
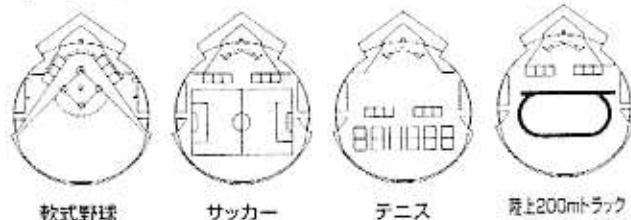
（仙台ドーム）

泉総合運動場テニスコートの西方に白い大きな貝殻を伏せた形の構造物ができあがったのをご存じの方もおいと思えます。公的施設としての建設賛否論が新聞紙上等でかなり大きく取り上げられておりましたのでその特異な姿以上に有名になっているかもしれません。仙台ドームという仮の名前で呼ばれていましたが、貝殻（シェル shell）の形をしたコミュニティセンター（community center）ということで、シェルコム と名付けられたようです。

当施設は、競技スポーツだけではなく、遊んだり、会話を楽しんだり、様々な形で利用出来るコミュニティスポーツパークであること。屋根と壁とが一体になり、建物全体が南方に大きく開く構造であること。特殊な換気口を設けることにより屋根閉じ状態でも有効な排気、排熱が出来ること。屋根にフッ素樹脂コーティングのガラス繊維膜が使われているので自然光を利用して、日中は人工照明なしでも十分な明るさが得られること。とうとうの優れた特徴をもっているようです。さらに、私たちテニス愛好者にとってうれしいことは、2001年開催の国体テニス会場としての使用が決まったことにより、テニスのためのコートラインが6面分常時引かれている状態にあることです。

また、テニスの公式戦に使用出来るための、バックネットや防眩ネット、審判台やスコアボードの用意がなされます。さらに移動観客席の設置による大規模大会の開催の可能性もあります。先日行われました日本テニス協会のテニス会場施設視察でも、「ディビスカップ開催会場」としても可能性がある、とのお話がありました。この施設は多目的利用への配慮として、下図のように多種のスポーツに対応出来る工夫がなされております。





砂入り人工芝の芝長が若干長く、さらに、底部には衝撃吸収のための10m/mのゴムクッションが敷かれておりますので、泉の外部の通常コートに比べてわずかではありますソフトな感触があります。しかし、ベテランテニスプレーヤーには足に優しくかえって好都合であるとも考えられます。

本年5月に完成の予定だそうですが、テニスコートとしての利用料金、他のスポーツ競技との兼ね合いによる利用可能日時等、気になる事柄が沢山あります。気軽に、手頃な料金で利用出来る条件が揃って、はじめて素晴らしい施設ということになるのではないのでしょうか。私共が予めから要望し続けてまいりました公営の室内テニスコートが、テニス専用ではないにしても、漸く実現のはこびとなりました。宮城県の冬の厳しい自然条件の中でのテニスを考えますと、専用の室内テニスコートの必要性は誰もが認めるところです。しかし、昨今の社会情勢からして、多くの観客席を有し、立派な付帯設備を持つ「#1」アリーナ形式の室内テニスコートは望むすべもありません。「テニスがオールシーズン楽しめさえすればよい」ことだけに注目して、建設費のかからないコートが出来ないものでしょうか。雨や雪が降ってもテニス出来るためには屋根(カバー)があればよろしい。日中は自然光を有効に生かすような工夫(テフロン幕や樹脂製の素材の利用)をしましょう。周りは、少し厚めの防風ネット(それらを支えるポール等が少し大きくなるでしょうが)があれば、冬の冷たい風でも気になりません。それに加えて、蔵王嵐や泉嵐を防ぐ目的も兼ねて、北西面にトイレと更衣室を作りましょう。建設地は、昨今、新聞紙上ににぎわしている市や県所有の沢山な無利用地の一部を利用しましょう。そして、日中は仕事

でテニスが出来ない市民のために照明設備をつけて夜間の利用も出来るような利用態勢をつくってもらいましょう。世界の人々がびっくりするような立派なスポーツ施設(サッカー場やプール)造りも結構ですが、利用頻度や利用者数から考えますと、「もったいないな」というのが、皆さんの正直な感想ではないでしょうか。

当連盟の会員諸氏のなかには、建築関連のお仕事をなさっている方や、かって、その業界におられた方が多々おいでです。壮年テニス連盟式の廉価でテニスが楽しめる「オールシーズンコート」の設計図を作成し、当局に提案するというのはいかがですか。連盟創立15周年事業の一環にしては如何なものでしょうか。新内閣も発足し、有珠山にも新しい熔岩ドームが出来そうです。春の訪れとともに連盟の内部にも何かしら新しい蠢きがあってもよろしいのでは。

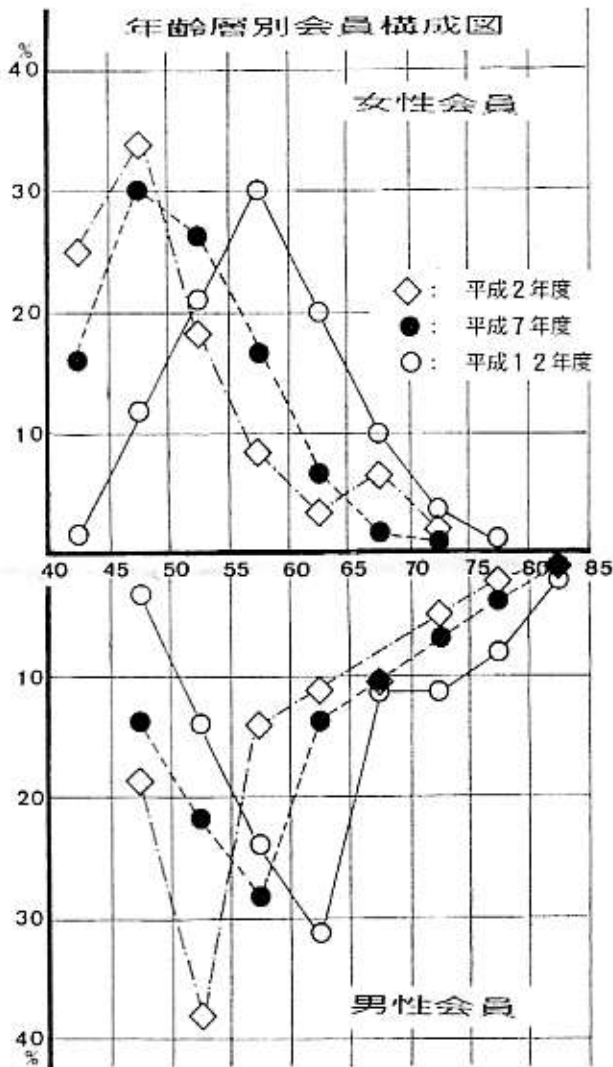
「シェルコム・せんだい」完成にともない、その内容をご紹介しました。利用料金等が手頃なものであれば、今まで、冬眠状態であった連盟の冬期間も、楽しくテニスが出来るそうです。この会報でお知らせいたしております、年間行事予定表に新しく「シェルコム・行事」が書き加えられるようになることを期待したいものです。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

### ※「会員年齢域構成」を考える 事務局

年齢域別会員構成をグラフ化してみました。男性会員は45歳から85歳まで、女性会員は40歳から80歳までをそれぞれ5歳間隔で分類したものです。このグラフでは 現在と平成2年および平成7年の会員構成とを比較し、この10年間で年齢構成がどのように変化しているかが示されております。平成2年においては、男性会員は45歳から55歳域で全体の57%を占めていましたが、平成7年では36%、平成12年で10%に減少しております。55歳から65歳域が26%からそれぞれ、42%、55%へと逆に増加しております。女性会員においてもこの傾向が同じように見られ、平成2年において、40歳から50歳域で59%であったものが、平成7年では46%、平成12年では14%へと激減しています。50歳から60歳域が29%からそれぞれ43%、および63%と増加しております。会員実数の変化は300名を軸としてほぼ横ばい状態ですので、男女両会員ともに会員全体が十年間にそ

れぞれ10歳だけ歳をとり、若い会員の入会が少なかっ



たという結論が出そうですがはたしてそれだけの原因だけなのでしょうか。

もうすこし つっこんでデーターを分析してみますと 違った形の実態像が浮かんでくるようです。平成2年において会員であった方々が現在においても会員でおいでになる この10年間の会員残留率は、男性会員で 42%、女性会員で 27% となっています。男性では半分以上、女性では三分の二以上の方々が転勤や体調不良あるいは自己都合で退会され、ほぼ同数の新会員が入会されています。

残留されている男性会員の方々は比較的高齢域の会員であり、転勤等による退会が少なかったことが原因の一つと推察され、データーもこの様子を示しております。しかし、女性会員の入会と退会の数が何故に多いのか、その原因を転勤等の物理的なものに見いだすのは無理があるようです。もう少し心情的な要素を付け加える必要があるようですが、コンピューターでは、入力されているデーター不足で解析不可能のようです。

これらの数値を総括してみますと、この10年間に新

しく入会された会員の多くが、男性で55歳以上、女性では50歳以上の方々であったということが考えられます。創立以来からおいでになる会員全体が10年歳をとったという単純なことではないようです。一般にテニスプレーヤーの平均年齢が高くなったとは考えにくいので、当連盟の諸行事や会の在り方に対する賛同者の年齢が連盟発足当初に比べて高くなってきたと考えるべきなのではないでしょうか。あるいはもう少し別の理由があるのでしょうか。

県テニス協会が開催しております年齢別の公式戦参加者を見てみますと、男性では(何故か女性における40歳以上の年齢別種日には参加申し込み者数が規定数に達しないため大会が行われた実績はありません。ただし、都市対抗に女子ベテラン種日が加わるようになっておりますので 若干 様子が変わるものと予想されます) 45歳以上の単複ともに参加者の著しい増加がみられ、55歳以上の単複にも多くの参加者が見られます。当連盟会員も多数参加しておられます。ただ、残念なことに60歳以上、65歳以上、70歳以上の種目における参加者は非常に少なく、大会が開催されても規定数に達しない為に実施されない種目もあるやに伺っております。ベテランの公式戦参加者数からは、比較的若い年齢層における競技性趣向の強さが伺えますが単純には結論を出せない事柄のようです。

東北マスターズテニス交流大会や日本シニヤ連盟のテニス大会、仙台市が開催するねりんピック選手選考会を兼ねた高齢者テニス大会等等、ひと昔前に比べますと高齢者が参加出来る大会が数多くなってきておりますので、どの大会に出場するかを選択を余儀なくされていることも事実のようです。

テニスの技量があがってくるに従いまして、単純にテニスを楽しむ「娯楽テニス指向」から脱皮して次第に「競技テニス指向」になって行くのでしょうか。当連盟会員の年齢域構成の変化が何を語っているのかを模索し、連盟の在り方、行くべき道筋を考えてみる時かも知れません。

しかし、このように変貌する会員構成のなかで、男性会員では、

岩月賢一(T021113)、花淵武雄(T030411)、新藤英雄(T060615)、星 猛夫(T060619)、中鉢不二男(T071015)、加藤文二(T071201)、大平徳弘(T090423)、の諸氏が80歳以上でご活躍なさっておりますし、

女性会員では

奥井紀美子(T140103)さんがお元気でテニスライフ



であれば1時間程度が適当です。

理想体重=(身長-100)×0.9 で、健康のための運動の頻度は週2~3回、時間帯は血圧や血液粘性を考えると午後が良いでしょう。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

## ※※「国体」あれこれ※※

ご承知のように、「国民体育大会(国体)」は、第二次世界大戦に敗れて荒廃していた日本を、物心共に復興させるための手段の一つとして、昭和21年日本始まった国を上げてのスポーツ行事であります。原則として各都道府県もちまわりで開催(ときには複数県で共催)しており、昭和27年(1952年)第7回の国体は宮城県で開催されたことを覚えておいての方もおいでのことでしょう。1988年第43回の京都大会から二順目にはいり、2001年第56回は宮城県での二回目の開催となります。\_ たちに関連のありますテニス競技は第3回福岡大会から採用されました。

競技種目は、成年男子、成年女子、少年男子、少年女子の四種目です。しかし、この開催種目も、先の宮城国体当時は、一般男子一部、一般男子二部、一般女子、高校男子、混合の五種目でありました。その後、一般男子一部二部を統合して一般男子とし、混合を廃して高校女子を新設し、四種目としました。そして、30回を機に、現在行われておりますような四種目の競技となりました。

しかし、21世紀から、すなわち、2001年の第56回宮城国体からは、成年男子のなかのベテラン競技(45歳以上のシングルスとダブルスの試合)が廃止されることになっております。私たち壮年連盟にとっては寂しい限りです。また、最近では、成年男女ともに、JOP上位の選手の出場が少なく、国体におけるテニス競技のレベルの低下も含めてその在り方に検討を要する時期であることは確かなようです。

競技方法は、成年男女、少年男女ともに、シングルス2試合、ダブルス1試合の合計3試合を行い、2試合勝てば勝利、という形式です。一回戦から決勝戦まで、全ての試合が8ゲームズ・プロセットマッチで行われます。S.C.U(ソロチェアー・アンパイアー)とボール・パースン(B.P)およびスコアー・パースン(S.P)が全試合につきます。日程は、10月14日(日)から17日(水)の4日間です。

どの試合もトラブルがなく、進行に滞りが生じないよう、また、観客にとって試合の進捗状況および対

戦状況がよく理解出来るようにとの配慮をした結果だと思われます。しかし、1回戦から決勝戦まで160回の対抗戦(500試合)に、S.C.U、B.P および S.Pがつくのですから、数多くの方々の協力無しには、大会の開催はあり得ません。S.C.Uには、C級以上の公認審判員の資格をもっている方々の協力、S.PおよびB.Pには、一般、大学、高校でのテニス経験者の協力を必要とします。勿論、コートの上だけで大会の開催は出来ません。総務、庶務、進行、記録、報道、会場、成績集計、開会および閉会式式典、等などに携わる競技役員、補助員の数は想像を越えたものになります。ちなみに、平成11年、熊本で開催された第54回大会での関係者人数は、選手および監督が332名、競技役員が120名、S.C.Uが85名、S.Pが65名、B.Pが150名、競技会補助、式典関係、プラスバンド、合唱隊等が合計で約1000名となっております。使用するコート数や試合数、式典方法、会場の規模が同じではありませんので、それらの数には差が生じると思われませんが、大変な数になることはお解りねがえると思われま

す。県テニス協会では、関係するテニス団体や大学、高校に協力の要請を行うことになっており、当連盟にも近々連絡が入るものと思われま

すし、個々には、S.C.U等についての協力要請がなされているようです。国体テニス競技開催にあたり、開催前年度の全日本都市対抗テニス競技大会を国体のリハール大会にあてて、本大会がスムーズに開催出来るよう図られております。したがいまして、本年の7月21日より3日間、泉総合運動場コート会場として、平成12年度全国都市対抗テニス競技大会が開催されます。競技方法は全国の予選を勝ち抜いた32の都市町村による勝ち抜き戦(一回戦敗者によるコンソレーションあり)により順位が決められます。競技種目は、国体種目とは異なり、一般男子の単複、一般女子の単複、男子45歳以上、男子55歳以上、女子45歳以上の複の合計7試合のうち4試合を勝ったチームが勝ちというルールです。競技方法および種目が異なるだけで、大会運営に関連した事柄は国体と全く同じ形で行われます。全国各地においての予選会が始まっており、出場都市町村および選手が間もなく決まることでしょう。開催までに3ヶ月の猶予しかありません。県テニス協会もその準備で多忙を極めているようです。

また、この両大会開催にあたり、人的な協力もさる

